

地域交流センターの建設は

町民の意見をよく聞いて下さい

交流センターの建設については、6月23日プロポーザル方式（建築物の設計者を選定するもので、発注者と共同作業を進めるパートナーを、複数から企画を公募し審査し指定します。コンペ方式は設計案を選定する方式です）で設計者が指名されたのを受けて、「地域交流センター基本設計ワークショップ」が、8月3日始まり約30名が参加しました。

先の基本構想策定委員会では①図書館を併設した地域交流センターの建設は、住民の意向を十分反映するように配慮すること、②町の財政の健全性のため、過大な事業執行とならないよう努めること、が求められています。同時進行したワークショップは5回開かれ、策定委員と合同で現地調査も行われました。

多くの町民が自由に アイデアを出し合って

これらの中で出された意見は「具体的設計には多くの町民の意見を反映していくこと」「自由にアイデアを出し合って作り上げることが、これからの町づくりに重要」「他の公共施設との役割分担、可動席は創造館・フラットは体育館など」「講演会が開催できるホール（講堂）、

災害時避難場所にするため可動席は不要」「安全・安心な防災拠点となる施設」など多岐にわたっています。これらの意見にどう応えるのが大変重要で

町民が納得できる 十分な時間が必要

基本設計のワークショップといえながら、「回数は5回、スタディ案（勉強、研究

という意味か）の共通理解をする」までとしています。つまり町民参加による基本設計をつくることにはならない気がします。

地域交流センターについて、①設置目的が統一されていない（コンサートが上演で

日本母親大会に参加して

8月1・2 in神戸

一体何年ぶりだろう。忘れていた熱気と感動が蘇ってきました。

会場は凄くいい人。県単位の母親大会とは規模が違います。外は猛暑でも会場内は冷房完備で、暑さ知らずの2日間で幸せでした。

今年は61回目の開催です。主催者や来賓の挨拶では「歴史的闘いの真つただ中にある。戦争法案を必ず廃案に」が共通の強調点。

若いときには何回も子連れで参加したものでしたが。当時は「命を生み、育て、守る」というスローガンは当た

きるホール中心か、防災拠点となり得る堅牢な建物か、社会教育法の公民館の位置付けかなど）②どのように町民の生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する施設にするか議論がされています。

建設です。拙速に運ぶのではなく十分時間を使い、多くの町民が参加できるよう努力すること、アンケートやパブリックコメントを、早め to 実施することはどうしても必要です。

（牛越邦夫）

滝沢

村端徳子

り前に思っていました。

しかし、今回改めてその言葉が深く身に染みました。先の戦争で死亡した人は、無念にも命をつなぐ事が出来なかったのですから。2度と同じ道を歩むことは許せません。



6,300人が参加

2日目の分科会では「標的の村」の分科会に参加。三上智恵さんに会えるのも楽しみの一つでした。映画は広い会場のどこかい画面で見ると怒りが強く伝わりました。高江は何度も行っていて、主人公たちは顔馴染み、日常生活の中で見えない苦労の様子がよく分かりました。辺野古が中心になっている昨今、高江の人達は「ヘリパット反対運動も忘れない欲しい」という気持ちでしょう。

お知らせ

長野県母親大会が9月27日に、堀金小学校で開催されます。皆さん、ご一緒に参加しませんか。

小池晃参議院議員の 国会論戦を見て 感じたこと



小池 晃（こいけ あきら）さんは、日本共産党の副委員長で、参議院議員です。出身は民医連の医師です。参院安保法制特別委員会での小池議員の論戦を、テレビやインターネットで欠かさず見て感じたことを書きました。

「なぜ安倍家の誇りを大切にしないのか」

小池議員は7月29日の委員会で、安倍首相の祖父、岸信介氏ではなく、大政翼賛会非推薦で当選し日米開戦に反対した安倍寛氏のことを紹介しました。

戦争推進に染まらなかった祖父を紹介し「なぜ安倍家の誇りを大切にしないのか」と地元の声をつきつけた質問は、とても印象に残りました。

安倍首相の父方の祖父は衆議院議員の安倍寛氏、母方の祖父は後の首相・岸信介氏で、父親は外務大臣を

務めた安倍晋太郎氏です。

総理は、自身の地元からの厳しい声をどう受け止めているのか……。小池議員は、安倍晋三首相の祖父、安倍寛氏の出身地である故郷、山口県長門市油谷・日置地区の浄土真宗本願寺派山口教区大津西組の組長が戦争法案の廃案を求める手紙を首相に送ったことを紹介しました。

「貴殿の祖父安倍寛氏は戦争遂行の翼賛体制の中、理想を求め反戦の立場より翼賛体制に染まることなく批判し、無所属で立候補し見事当選されました。御尊父、晋太郎氏は『俺は安倍

寛の息子だ』と父を誇りとされていたとのこと。なぜ貴殿が安倍家の誇りを大切にされず受け継がず、日本を危険な方向へ導かれるのでしょうか」

この手紙は首相の地元事務所に届けられたといいます

小池議員の質問に首相は「地元にもさまざまな意見がある。そうした意見に真摯に耳を傾けることは、地域の代表、国会議員の役目だ」と述べ「今回の法制

守り平和な暮らしを守りぬくためのものだ」と強弁しました。首相は故郷からの声もまともに受けとめようとしません。

統合幕僚監部が 法案成立を前提に 運用計画を立てる

8月11日の委員会で、防衛省統合幕僚監部が5月末に作成したとみられる内部資料を提示。その中に審議



防衛相は答弁を避け審議はストップし散会、19日に再開しました。

文書は、戦争法案が衆院で審議入りした5月26日、

自衛隊の主要幹部がそろったビデオ会議で活用されたといいます。

文書は、全自衛隊規模の意思統一用だったことが判明しました。中谷元・防衛相が国会の法案審議も始まつていない5月15日に指示を出し、自衛隊の統合幕僚がこれを受けて作成していたことも合わせて明らかにしました。国会審議や国民世論を無視し、戦争法案成立ありきで暴走する安倍政権の責任は、いよいよ重大です。

政府や自民党は「法案が成立してからでは準備が間に合わない。事前に計画を立てるのは当たり前」「内部からの資料の流失の方が問題。徹底的に当事者を洗い出す」という姿勢です。

しかし、国民に知らされず、国会論議も経ずに、重大な内容が事前に決められ実施されるとしたら恐ろしいことです。

（山本久子）